

# ‘ししわかまる’高収益栽培のための 肥培管理と整枝技術 (露地トンネル栽培)



## 【目次】

- ① はじめに
- ② 施肥
- ③ 定植
- ④ 整枝・誘引
- ⑤ 作業に要する時間
- ⑥ 肥料費および資材費
- ⑦ 栽培暦

令和7年  
和歌山県農業試験場

## ① はじめに

和歌山県は、辛味果実の全く発生しないシシトウ新品種‘ししわかまる’を育成し、令和2年に品種登録出願を行いました。

しかし、‘ししわかまる’は慣行品種‘葵ししとう’と同じ栽培方法では草勢が弱くなり、収量や品質が低下します。

そこで、農業試験場では、令和4年より収量や品質の向上を目的とした栽培技術の確立に取り組みました。



## ② 施肥

- ・窒素成分量で10aあたり45kg～60kg施用します。
- ・緩効性肥料を用いる全量基肥か、基肥に緩効性肥料または有機配合肥料、追肥に有機配合肥料を用いる追肥1回施用を基本とします。
- ・緩効性肥料は肥効期間が長いプラスチックレス肥料（スーパーIBなど）を推奨します。
- ・追肥1回施用の場合は、梅雨明けの7月下旬頃に追肥を施用します。

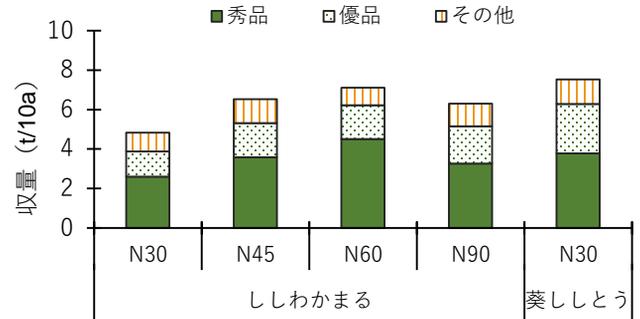
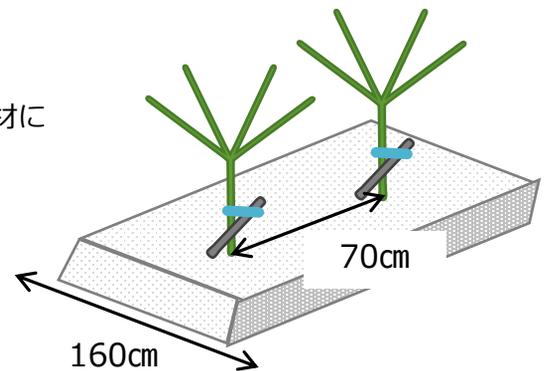


図1 施肥量が規格別収量に及ぼす影響  
収穫期間：令和4年5月27日～10月28日

## ③ 定植（定植までは、慣行に従って栽培します）

- ・畝幅 160cm 株間 70cm 1条植え（893株/10a）
- ・畝にトンネル用資材（または鉄管+アーチ）を設置し、ポリフィルムなどで被覆して畝の保温を行います。
- ・強風等による倒伏防止のため、トンネル資材や被服資材にマイカ線を張り、固定します。
- ・定植時、土を少し多めに被せ、定植後は活着するまで株元に灌水を行います。



## ④ 整枝・誘引

主枝4本仕立て、側枝放任を基本とします。

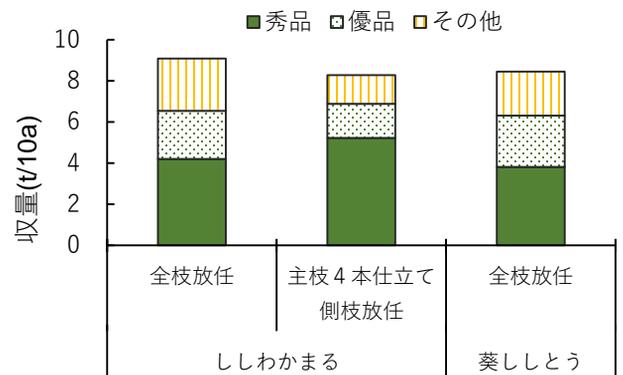
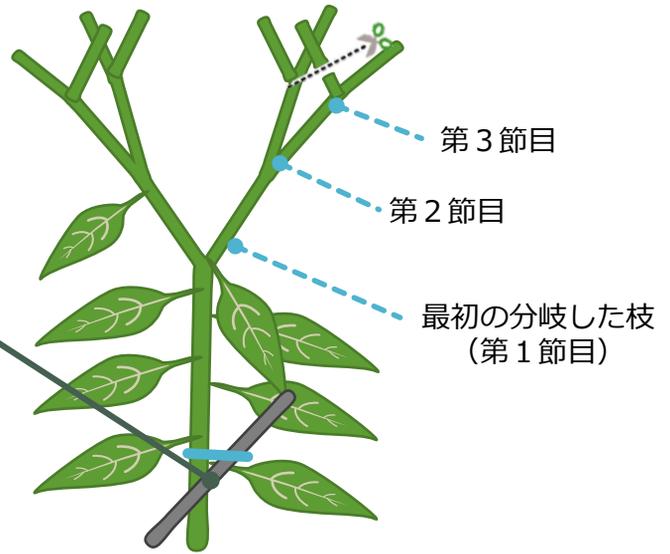


図2 整枝が規格別収量に及ぼす影響  
収穫期間：令和4年5月27日～10月28日

## ○誘引開始

5月に第3節目の内側を向いている枝を切ります。1株につき、4本切ることになります。

倒伏防止のため、  
支柱とシトウを固定します。

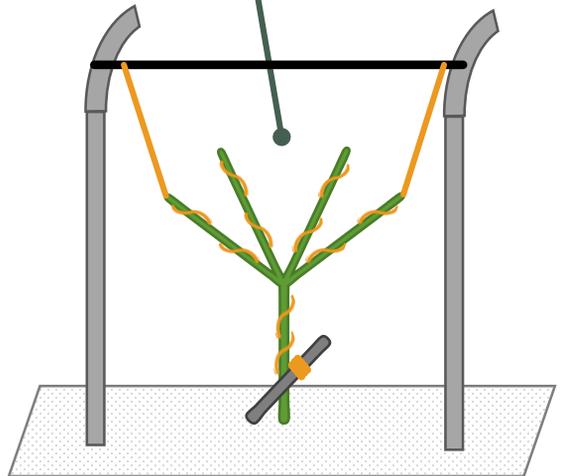
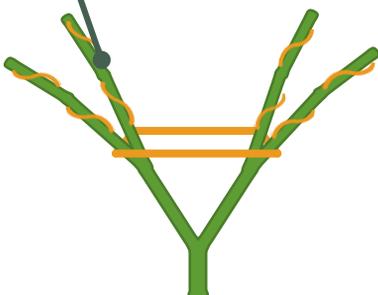


6月以降、3節目に分かれた勢いの良い枝を主枝として、下図の要領で誘引し、4本仕立てとします。栽培期間中に誘引ひもが緩みすぎたり解けたりした場合は随時絡めなおします。特に台風の前などは注意します。

枝が垂れると草勢が落ちやすくなるため、  
枝が垂れない高さにマイカ線を張ります。

- ・支柱に誘引ひもを括り、シトウに誘引ひもを絡めます。
- ・トンネル資材に張ったマイカ線に誘引ひもを結びつけます。

1節目の誘引ひもの食い込みが  
気になる場合は、下図の方法  
でも誘引可能です。



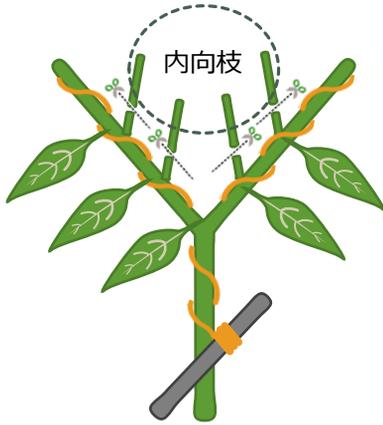
- ・誘引ひもをきつく張りすぎると枝が折れるので注意します。
- ・栽培中に主枝が折れた場合、別の枝を主枝として誘引しなおします。

## ○内向枝整枝

主枝誘引後の6月末以降は、内向きに伸びる枝（内向枝）が混み合い、受光不良の原因となるので、随時除去します。

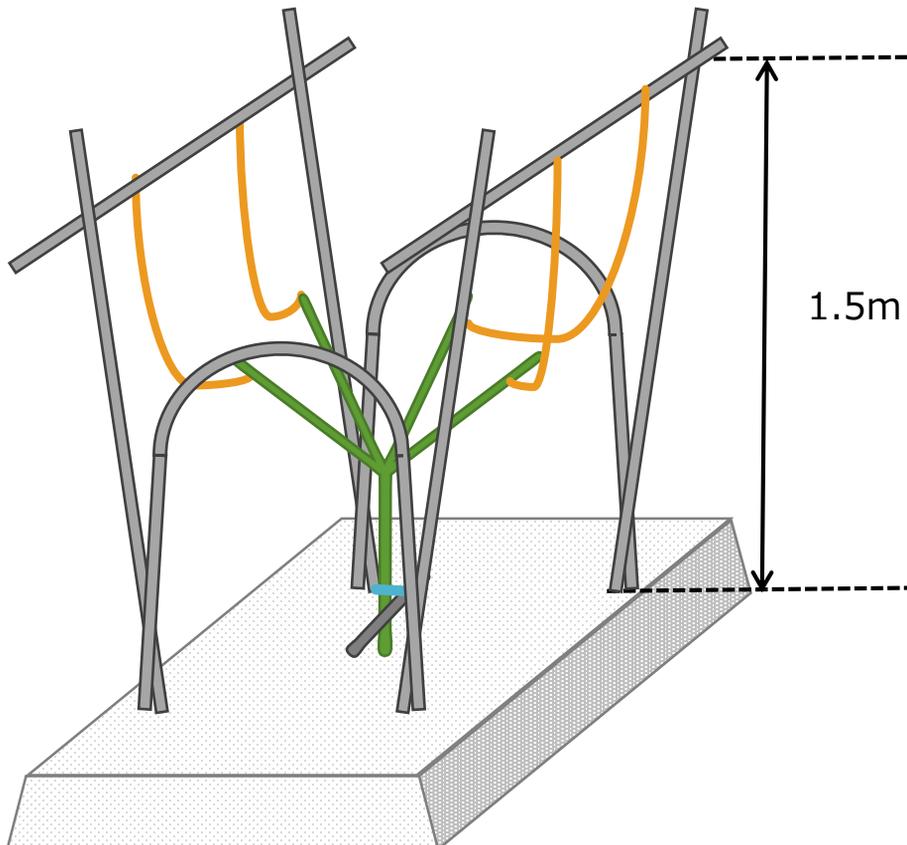
第1分枝より下のわき芽や下葉、下向きに垂れる枝も取り除きます。

基本は側枝放任ですが、内向枝を整枝すると、作業性が向上します。



## ○誘引（7月下旬以降）

直管パイプを使用して支柱を組み立て、高さ1.5mの位置に誘引しなおします。トンネル栽培に使用したビニールなどは外さなくても誘引可能です。



## 5 作業に要する時間

主枝4本仕立て・側枝放任で栽培すると、整枝時間は年間で130時間ほどかかりますが、収穫時間は無整枝に比べて年間で380時間ほど短くなります。

表1 ししわかまるの仕立て方法が整枝時間や収穫時間に及ぼす影響

仕立て方法	年間整枝時間 <sup>z</sup> (時間/10a/年)	収穫効率 <sup>y</sup> (分/kg)	総収量 <sup>x</sup> (t/10a)	総収穫時間 <sup>w</sup> (時間/10a/年)
主枝4本・側枝放任	133	33.4	7.9	4393
無整枝	-	38.8	7.4	4774

1区3株で主枝4本・側枝放任は4区、無整枝は3区

z: 6月～9月の整枝に要した時間の合計から算出

y: 7～9月の収穫に要した時間(3株調査、9回実施)から算出

x: 調査期間は令和5年5月23日～10月30日 w: yとxから算出

## 6 肥料費および資材費

- ・肥料費は、緩効性肥料と有機配合肥料のどちらを使用しても10aあたり12万円程度となります。
- ・慣行栽培の'葵ししとう'と比較して、初年度の資材費は10aあたり約43万円、2年目以降は約1.3万円増額となります。

表2 シシトウ栽培における肥料費および資材費の概算

品種名	肥料費 <sup>z</sup> (千円/10a)	資材費 <sup>y</sup> (千円/10a/年)
ししわかまる	120	156
葵ししとう	61	61

z: 有田管内に流通している有機配合肥料と苦土石灰を施用した場合

y: 畝幅160cm、株間70cmとした場合の誘引・整枝等に要する資材費

## 7 栽培暦

